

下の文章を非利き手で丁寧(読みやすい字になるよう)にお書き下さい。

むずかしい言葉をかみ砕く

身近なたとえに置き換える

抽象的な概念を図式化する

バラバラの知識をつなぎ合わせる

池上彰著, 相手に「伝わる」話し方, 講談社現代新書, 2002 より引用

所要時間

分

秒(

秒)

書き終わったら, 書きやすさの印象を下の線上のもっともあてはまる箇所に印を付けてください。

難しくない _____ 難しい

記入例 : それほど難しくないと感じた場合

難しくない _____ / _____ 難しい

書きやすさの主観 (VAS10cm 法) を測定する場合は, 必ず A4 サイズ 100% 指定で印刷してください。

<実施要項>

- ・所定の文字の模写を行い、すべての模写にかかる時間を測定する。
- ・丁寧に読みやすい字となるよう書くということを指示する
- ・模写後に「書きやすさの印象」をVAS10cmで測定する

なぜ丁寧に読みやすい字となるように指示するか

教育学の分野ではきれいな字ではなく、丁寧に読みやすい字を書かせるよう指導しているようである。

このことをふまえ、この書字評価では「丁寧に読みやすい字となるように」指示することとした。すなわち、非利き手の上達とともに、丁寧に書きながらもスピードに変化はあると考えたのである。

(参考文献)磯野美佳他:手書き文字に対する読みやすさ等の感覚とその世代差に関する研究.書写書道教育研究 14:2000.
<http://www.shosha.kokugo.juen.ac.jp/oshiki/ronbun/Kankaku2000/index.html>(2005.2.7 検索)

<実施手順>

被検者に1.文章を下の枠内に模写すること,2.丁寧に読みやすい字となるように書き写すこと,と提示する

開始:所要時間を測定する

書き終わったから、下のVASに「書きやすさの印象」を記入してもらう

<参考データ>

		介入 A 群, n=10 age=22.30 ± 2.71	介入 B 群, n=11 age=22.09 ± 2.34	統制群, n=14 age=20.71 ± 1.77	合計, n=35 age=21.60 ± 2.03
		平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)
書字時間 (秒)	介入前	325.57 (± 74.41)	309.59 (± 56.52)	378.05 (± 82.96)	341.54 (± 77.40)
	1週間後	301.88 (± 83.59)	298.27 (± 65.85)	388.98 (± 95.90)	
書きやすさ の主観	介入前	75.80 (± 21.42)	74.09 (± 18.00)	71.64 (± 24.94)	73.60 (± 21.39)
	1週間後	50.50 (± 13.50)	56.55 (± 17.21)	64.71 (± 23.80)	

すべて左手(非利き手)使用のデータ

介入 A 群:書字・箸操作訓練実施,介入 B 群:マクラメ実施,評価にはボールペン(MITSUBISHI 製 SN-80)を使用.
 作田浩行他:利き手交換に効果が期待できる訓練手段の検討.作業療法 24(suppl.):309, 2005 より

<OT による利き手交換訓練研究アラカルト>

~伊井奈緒美:作業療法分野と教育学分野における書字動作研究について.昭和大学保健医療学部作業療法学科卒業研究 2005 より抜粋~

中井ら	書字操作訓練の具体例を提示.ただし経験則からの内容と思われる. ぬりつぶしや単一線などの基本的訓練から開始,つづいて文字を書く訓練へ.文字は基本画の訓練から平仮名・漢字まじり文へ移行する.1日6時間・2~3ヶ月の期間が必要と述べている. 中井敬三,衣川博也:脳卒中片麻痺患者の利手交換訓練の一方.理学療法と作業療法 9:775-781, 1985.
種村ら	54名の入院患者に利き手交換訓練を実施し,効果に影響する要因を検討した.結果,利き手交換訓練が失敗に終わった例では,高齢・巧緻動作スピードが遅い・握力が弱い・筆圧が弱い・円滑な運筆が困難・意欲が低下しているなどの特徴があったという. 種村留美,藤部百代,丹羽奈保美,他:利手交換の成否に関わる因子.第21回日本作業療法学会論文集,102,1987.
宮前ら	健常者30名を対象に,左手での書く速さ,字の上手さ,教材による違い,上達度の差について検討した.実験期間は1ヶ月で,1日30分,週5回の訓練を実施した.結果,上達率が最も高かったのは,ペン習字練習帳を用いて速く書くよう取り組んだ群であり,もっとも上達率が低かったのは,基本練習群であった. 宮前珠子,佐々木光子:書字の利手交換.第13回日本作業療法学会論文集,10-15,1979.
松村ら	健常者23名を対象に,書字操作訓練の効率を検討した.23名を2群に分け,1つは直線や円などの基本図形模写課題から開始し段階的に文字へ移行,他方は文字を書くことから開始した.結果,段階的に移動した群も文字から開始した群も書字操作訓練としての効率には影響がなかったと述べている. 松村早代,齋藤千明,田中一世,他:非利き手による書字学習.作業療法 23(suppl.):611, 2004.

以上,文責:昭和大学保健医療学部作業療法学科作田浩行 OTR